

発達障害検査からみる適職



もりさわメンタルクリニック

自閉症スペクトラムの診断

対人関係／臨機応変／同時並行／感覚の敏感さ／限定された興味……

- ⇒
- ・顧客（電話含む）対応や受付業務の少ない仕事全般
 - ・業種によらず単一業務に特化できる配慮と環境。
 - ・工場のライン作業
 - ・マニュアル化されているチェーン店スタッフ
 - ・スーパーのバックヤード業務
 - ・きめ細やかな指導のある小規模事業所（部署）。
 - ・分業の進んだ大規模事業所（部署）。
 - ・専門性の高い職人的仕事（管理業務のサポートがあればフリーランスも）
 - ・研究職（実はコミュニケーション能力が重要という話もある）

ADHDの診断

不注意／落ち着きの無さ／刺激を求める／時間管理の苦手さ……

- ⇒
- ・営業職は適職の場合もあるが、運転には注意が必要。
 - ・細かい事務作業が少ない電話対応や受付業務
 - ・料理人やパターン化されていないモノづくり。
 - ・医療／福祉系はコミュニケーションが好きなタイプのADHDには適職だが、確認の工夫やサポートが必要。
 - ・品目数の多いスーパー等、小売店は退屈せずに済む可能性はあるが、数字を扱う場合には注意が必要。
 - ・型にはまりたくない欲求の強いADHDにフリーランス（個人事業主）は望ましい形態と言えるが、管理業務にはサポートが望ましい。

WAISの能力バランス①

言語理解の低下

- ・コミュニケーションで語彙の少なさや一般的知識の少なさが問題となることがある。
 - ・本当は後からでも伸びる能力なので、知識をつける習慣を持つことが望ましい。
 - ・言語理解を基礎とする知識の習得で負担が大きいことが予想される。
 - ・技術や知識習得のための勉強に人よりも時間をかける必要がある（あるいは、テキストのみでは困難である）。
 - ・要領良く伝えるのが苦手な人が多いので、言いたいことを箇条書きにして、大事な項目から伝えることが望ましい。
 - ・論理的な思考が苦手であることが多いので、職場での衝動的な発言に注意を要する。
 - ・「報連相」よりはずっと手前のコミュニケーション（挨拶・謝罪・お礼等）に注力することが有効である。
- ⇒以上のような傾向から考えると、**知識の要求度の低い作業的な仕事**（できれば他者との協力が必要ではない**単独で黙々とできる作業**）が望ましい。

WAISの能力バランス②

知覚統合の低下

- ・様々な道を覚えなければならない営業職や運転業務を主とする職種は向いていないことが多い。
 - ・構造を捉えて臨機応変に方法を変える必要がある作業もつらいかもしれない。
 - ・同じ作業系でも、やり方が画一的で、臨機応変が求められない場合は適応可能。
 - ・推理・推定も苦手なため、1日のスケジュールが決まっている職場が望ましい。
 - ・業務内容が変動する場合は、自分で大まかにリスト化すると見通しが立って、気持ち楽になる。
 - ・言語能力が高い場合は、言葉での理解で補える場合が多い。
- ⇒**移動や予定変更の少ない固定化した業務。言語能力で補うことが可能な、コミュニケーション重視の業務。**

WAISの能力バランス③

作動記憶の低下

- ・多くの人と次々と会話するような職場はつらいと思われる。
 - ・特に電話対応は聴覚だけで記憶を保つ必要があるので、向いていない。
 - ・対応しなければいけない電話の本数が多い職場はさげたい。
 - ・ラインやメール、手書きメモ等で、指示を残す形にできると「抜け」が少なくなる。
 - ・（指導する側のキャラクターにも左右されるが）「努力しますが…」という前提で、自分が抜けやすいため確認させてほしいと伝えておくのが望ましい。メモの時間をとったり、口頭での復唱がやりやすくなる。
 - ・頭の中に様々なことを置いたままで、あれこれ思考していると混乱するので、ノートやスマホに書きながら（あるいは整理してくれる相手に話しながら）考えるのが望ましい。
- ⇒コミュニケーション重視の多人数の職場は非常に疲れることが予想される。メモやメール等に頼って意思の疎通がとれる環境、あるいは少人数か単独に近い職場が望ましい。

WAISの能力バランス④

処理速度の低下

- ・まずは職場のペースが速すぎないことが重要。
 - ・常に納期が迫っている作業系、回転の速い飲食系、レジ打ち等、次々と処理を求められる作業は向いていないことが多い。
 - ・見学や体験をさせてもらうほうが良い。求められるスピード感は実際にやってみないと分かりにくい。
 - ・求められる作業速度が速くても、指導体制が整っており、マニュアル化されている職場であれば、対応可能であることもある。やり方が具体的で分かりやすく、指導に時間を割いてくれるのであれば、徐々に作業速度は向上する。
 - ・指導が「見て覚えて！」と言うような体制で、作業方法も流動的、さらに先輩や上司が、指導する暇もないほど仕事に追われている職場はさげたい。
- ⇒知覚統合が低い（目安として85未満）でなければ、慣れによって徐々に作業速度は上がると予想される。実際の負荷を“作業量×プレッシャー（精神的圧迫）”と考えると、作業量自体が多くても精神的圧迫が少ない明るい職場であれば耐えられる可能性がある。

講義は以上で終了です。おつかれさまでした。

発達障害検査からみる適職



もりさわメンタルクリニック